

災害環境研究プログラム 環境回復研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 中間貯蔵施設における溶融技術の実機化が決定され、成果が社会実装されつつあることを高く評価する。
- 貯水池底泥からの放射性セシウムの挙動に関して、そのリスクと対策を具体的に示されたい。
- 環境汚染モニタリングの定点観測点を土地利用を考慮して選定し直し、長期に渡って追跡することが必須である。従来のままの観測点で測定した結果が不検出であることによって安全との誤解を与えることは避けるべき。

今後への期待など

- ストロンチウムの高感度計測方法の開発に関しては、良い見通しと展望を期待している。
- 一連の研究成果を行政機関や住民に積極的に発信してきており、今後も行政や社会との連携を推進し、リスクコミュニケーションを念頭に置いた研究を期待する。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①存在量としての評価を含め、溶存態放射性セシウムに係るリスク評価は、まさに今中長期計画の残りの期間で取り組むべき重要課題の一つに位置付けております。折に触れてご指導いただきつつ、定量的な評価結果を示し得るよう努めて参ります。
- ②水環境における放射性セシウムの中長期的なモニタリングのあり方を検討する一環として、多数の外部研究機関との連携により実施した広域河川水質調査の解析結果や地域住民のニーズ、モニタリングコスト等を集約し、その包括的評価を基に、放射性セシウム濃度の推移を定量評価し得るモニタリング体制が構築をされるよう、研究サイドから環境省に働きかけていく所存です。
- ③ストロンチウムの高感度計測方法の開発に関しては、今後もより一層の研究の充実化を図り、ご期待に沿えるよう鋭意努めます。
- ④今後も行政・社会との連携をさらに推進し、広報活動の充実化を図っていく所存です。具体的には、環境省福島地方環境事務所と密接に連携し、当該地域の住民の方達との双方向のコミュニケーションの機会を創出することにも取り組んでいきます。